

# ミニレポート vol.24

## 増加する精神疾患・過労自殺の労災認定



ウチヌノ人事戦略事務所 社会保険労務士 内布 誠

### 増加する精神疾患・過労自殺の 労災認定

#### ◆長時間労働や仕事上のストレスによる精神疾患

過労や職場のストレスが原因でうつ病などの精神疾患にかかり過労自殺した（未遂を含む）として、2007 年度に労災認定された人は前年度を 15 人上回る 81 人となり、2 年連続で過去最悪となりました。過労自殺者を含む精神疾患の労災認定者も 268 人と、前年度比 3 割増となっています。

厚生労働省は、「長時間労働に加え、仕事の重圧なども精神疾患の原因になる」として、労働環境の改善を求めています。

#### ◆過労死と過労自殺

過労死や過労自殺の定義を整理してみましょう。

「過労死」は、働き過ぎが原因で、心筋梗塞や脳梗塞など心臓や脳の疾患を発症し死亡するものです。認定基準としては、「発症前 1 カ月に 100 時間または 2～6 カ月間に月 80 時間を超える時間外労働があれば関連性が強い」とされています。

「過労自殺」は、過労や職場でのストレスからうつ病などの精神疾患となり、自殺に至るものです。原則として発症前 6 カ月の間に、長時間労働や仕事の量・質の大きな変化、重大なミス、出向やセクハ

ラなどの業務上の強いストレスがあったことが認定の要件となります。

今回の調査では、脳梗塞などの脳・心臓疾患で労災認定された人は前年度から 1 割増えて 392 人（うち死亡したのは 142 人）と、過去最悪となりました。

#### ◆精神疾患増加の理由とその対処法

2007 年度は精神疾患の労災申請数が前年度比 16.2% 増の 952 人、一方、脳・心臓疾患の申請は 0.7% 減の 931 人で、調査開始以来初めて、過労による精神疾患の申請が脳・心臓疾患を上回ることとなりました。

精神疾患の労災認定者の 1 カ月平均残業時間について、80 時間以上だった人は 111 人でした。一方、20 時間未満の人も 72 人いましたが、「長時間労働だけでなく職場のいじめや過剰なノルマなどで精神疾患になるケースもある」という声もあり、一概に時間外労働の多寡だけでは判断しにくいところです。

労働者の精神疾患が増える背景には、企業が目先の発症者対策に追われ、長時間労働が減らないという根本的問題があります。また、個人主義や「勝ち組」「負け組」といった考え方が横行し、会社の中で連帯して集团的に問題を解決する能力が低下していることも一因といえるでしょう。

精神疾患は薬だけで治るものではありません。もの  
の見方や感じ方を修正するカウンセリングの実施な  
ど、職場や家族が一体となって取り組んでいくこと  
が必要です。